

京丹波町地域福祉活動計画

みんなが参加したくなる土壌づくり

～いつでも どこでも 誰でも参加したくなる町に～

この計画は、京丹波町に暮らすすべての住民のみなさんのためのものです。
地域には、さまざまな人が暮らしています。
多くの人と知り合い・語り合い・関わり合い、みんなの力を合わせることで
安心して暮らすことができる福祉のまちを目指しましょう。





地域みなさんに聞きました 「京丹波町ってこんなところ」

障がい者の施設が少ないなあ

仕事や住むところ
の選択肢が増えたら
いいなあ

一人暮らしの人が
増えてきたなあ

引越してきちゃった
人にも地域のルールを
知ってもらうことも
大事ななあ

交通が不便、なにをするにも送迎が問題や

ゴミ置き場が遠いから大変やわ

雪かきをしてくれる
人がおっちゃったら
ええなあ

免許返納も分かるけど…
バスはぐるっと回るし
時間もかかるしのう…

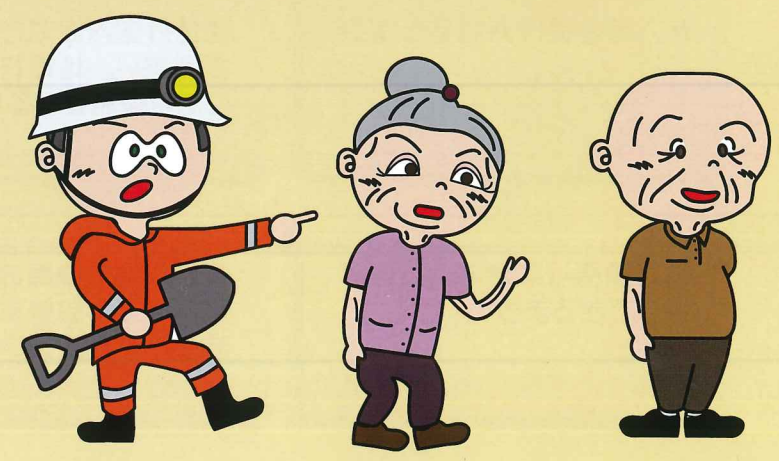
ドッグフィールドが
あるのを売りにしたら
いいのに

楽しい消防団活動！

役員のなり手がいないんやわ

外国の人を
よく見かける
ようになったなあ

村用は大変やけど
参加したら楽しい



第1期地域福祉活動計画を策定するにあたり、地域振興会（桧山地域振興会・梅田地域振興会・三ノ宮地域振興会・質美地域振興会・北部地域振興会）、集落連携組織（上和知中部村おこし委員会・竹野活性化委員会）、ふれあい・いきいきサロン活動者、京丹波町民生児童委員協議会、京丹波町身体障害者福祉会、京丹波町国際交流協会、京丹波町障害児者を守る会、一般公募により集まっていたいただいた方、延べ64名の方々にワークショップ、ヒアリングを実施し、その中で出された意見を記載しています。

空き家が増えてきたなあ

ペンギン村みたいな
町が気に入って
引っ越してきました

田舎には良さが
たくさんある
「何もない」がいいんや

面倒くさいことに慣れて来たんです

つながり合う地域は災害に強いと思う

男性は地域の役を終えたら
地域のつながりがなくなる
人が多いんちゃうかな…

役を減らして欲しい

サロンに男性の参加が少ないなあ

自然が多いので
都会ではできない
子育てができる

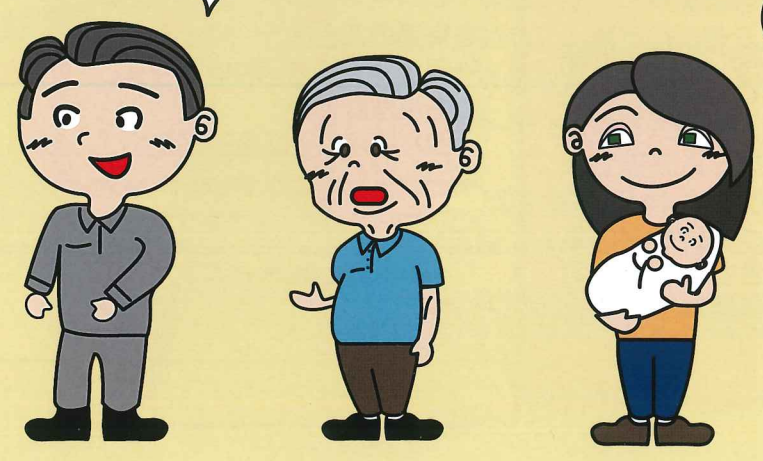
赤ちゃんが生まれると
近所の人がすごく
大事にしてくれるんです

近くの人が野菜を
くれるのが
うれしいわあ

バス停が遠いねん

子どもを通じて
知り合いが
増えました

子育てに
自然公園があって
うれしいな





こんな“まち”にしたいな

町内中学生にヒアリング、須知高校生にワークショップを実施しました。その後、この活動計画(案)について意見を募集した生徒たちの“まちづくり”に対する思いです。

住んでいる人にこの町を誇れて好きだと言わせるような町にしたい

お年寄りの人たちが安心して暮らせるようになるために、移動販売の車を出したり、病院の医師に家まで来てもらえるような制度をつくる

乗り合わせタクシーをつくれれば高齢者が助かる

もっと高齢者の方とたくさん関われる取り組みがあつたらしいと思う

駅や高速道路も通っているからショッピングモールなども建てて地域を繁栄させてほしい

人と関わりをつくるためにイベントなどを多くするべきだと思います

100円バスをつくる



若者にも目を向けてほしい



障害者の施設とかができてほしいなと思う

ボランティア活動を増やしていく

「食」もおいしいからもっとたくさんの場所で売って、京丹波の食の魅力についてたくさんの人に知ってもらいたい

雪かきをする人が増えたら事故にもならないので良いと思います

職場がなければ出なければならぬ。職場が増えたら人も増える

地域の人たちと関わるが増えたら良い。



子どもだけでなく大人と子どもで遠慮なく話せる空間があればおもしろいと思う

障害者の人たちとのふれあいなどがあつたらしいと思います

空き家が増えてきているのだったら観光地をもっとアピール(インターネット・YouTube)したり、田舎体験などをして呼び込めたらいい

地域の行事など運営の問題でなくなっているものがたくさんある。そういう行事は地域の人たちと交流できるとてもいい場なので、行事がなくなっていくように町や大きな地域などでも協力していければいいと思う

交通のこと。通学でバスを使おうとしても本数が少ない。親がいないと移動もできない

きれいな避難所がほしい



こんな“まち”にしたいな

子どもの声が聞こえるまち。もっと大人が楽しんで、地元が好きな子どもを増やしたい

地域の安心安全な暮らしのためにモサロンを活かして、つながりのある地域づくりをしたい

日頃のつながりが大事。災害時の避難やゴミ出し、雪かきなど助け合えるまち

買い物がしやすいまち

障がい者、健常者が協働する場、一緒に考える場ができると良い

役の再編、区の合併などで役が減ってほしいなあ

親が子どもに魅力を伝え、帰ってこいと自信をもって言えるまちに

隠れた福祉課題があるはず。住んでよかったと思える地域づくりをしていくことが重要

若者が地域から出ていかないまちに



農業女子プロジェクト!

いろんな人と飲み会をして、つながりたい

世代を超えて集まりたい。若い人と話したい。そんな機会があればいいな

自分が賑やかな人になってまちを盛り上げたい

顔を合わせてコミュニケーションがとれるまち



“人集めはしゃもじでせい!”人が集まるには食が一番。集まることから始める

農業が盛んになって収入が得られるようになったらいいな

障がい者が安心して生活できる場所が必要

交通の便が良いまち

転入者を受け入れる土壌づくり

在住外国人に対しての理解が深まり、地域行事に参加したり交流できるように

『スイミー』のように、みんなて協力できるまち

区で頑張りすぎず、広域で協力できるまち

多世代間での顔の見える関係づくり。和気あいあいと話ができる場づくり

ゴミ置き場を増やし協力してゴミ出しができればいいな

方針：『みんなが参加したくなる土壌づくり』



助けたり、助けられたり。
困りごとの解決はお互いさまで



高齢者施設でボランティア活動をする小学生たち

重点

思いを語り合える場づくり

【取り組み内容】『〇〇をかたろうな』（様々なテーマ別座談会）の開催

「語り合い」はお互いの理解を深めます。「語り合い」の中で、地域の困りごとに気づいたり、解決策を見出したり、お互いさまの関係を築きながら思いを伝え合い、地域のことをみんなで考えませんか。

例えば・・・地域活性の取り組みをしている人たちで、サロン活動者で、交通や防災などテーマ別に、いろいろな思いを語り合しましょう。

「やっぱり、この京丹波町が好き」「自分の住む地域を何とか良くしたい」「各地域のいろいろな取り組み実践について話をしてみたい」「この町に移住してこられた人は新たな視点でこの町の良さを伝えてくれるのではないだろうか」このような思いをお持ちの方がたくさんおられること、そしてその思いを語り合う場や、共有する機会の大切さをみなさんと一緒に再確認できました。地域を愛する思いは、地域福祉をすすめる上で大きな原動力となります。楽しく無理なく“語り合う場”づくりが必要です。



重たい荷物もみんなで協力しあって
地域ぐるみで買い物支援



外国籍の技能実習生が多く暮らす地区
ではふれあい・いきいきサロンで交流
が深まっています

人と人との結び目づくり

「つながり」は地域の中での孤立を防ぐだけではなく、お互いに声をかけ合える関係が築けます。安心して暮らせる関係を増やしませんか。

京丹波町では、昔から「ご近所さん」「お互いさん」といった、助け合い・支え合いの文化が残っている一方で、ライフスタイルの変化により地域とのつながりの希薄化や、地域活動等の担い手不足などが課題となっています。

また、少子高齢化にともない区単位での取り組みや、伝統行事の維持も難しくなっています。共通の課題や目的を持った団体・地域が連携・協同したり、地域の中でお互いに「助けて」と言える関係づくりや、人に「頼り合える」という関係づくりなど“つながる”ことが重要です。

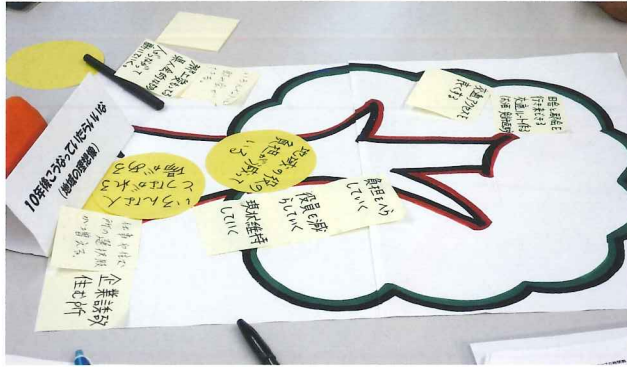
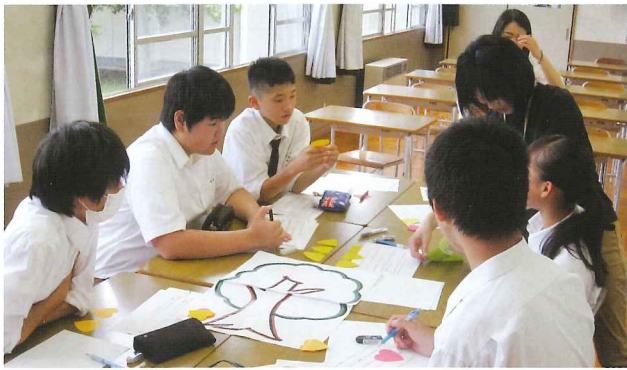
みんなの出番づくり

「出番」があり、活躍の場があるということは人生を豊かにします。お互いを認め合い、みんなが活躍できる場を広げませんか。

地域の中には、役割がないと参加しにくい人、集まる場があれば楽しくお喋りできる人、趣味多彩な人、障がいのある人、閉じこもりがちな人、外国から来た人など…さまざまな価値観や文化的背景の違いをもつ人たちが暮らしています。

それぞれに自分に合った居場所や出番・活躍の場があれば暮らしが豊かになります。

そのためには、既存の価値観に捉われるのではなく、お互いを知り、認め合い、それぞれが活躍できる場を広げることが大切です。



京丹波町地域福祉活動計画策定に向けたワークショップの様子

計画策定のスケジュール

令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)	令和 5 年 (2023 年)	令和 6 年 (2024 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 8 年 (2026 年)	令和 9 年 (2027 年)
京丹波町社協 地域福祉活動計画 第 1 期 (計画期間 3 年間)			京丹波町社協 地域福祉活動計画 第 2 期 (計画期間 4 年間)				第 3 期
実施・評価・次期計画策定			実施・評価・次期計画策定				
(参考)行政計画 京丹波町地域福祉計画 第 1 期 計画期間 平成 29 年～令和 8 年(10 年間)							第 2 期

本会職員を中心にしたプロジェクトチーム会議により地域福祉活動計画のチェックと評価を行い、必要に応じて柔軟に計画の修正を行いながら次期計画「地域福祉活動計画2（令和5～8年度）」に反映させていただきます。地域福祉活動計画に示した重点項目の具体的内容については、本会の事業計画にも反映させながら、地域での福祉活動が広がるよう取り組んでいきます。

まずは、「みんなが参加したくなる土壌づくり」に向けてみなさんのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

社会福祉法人 京丹波町社会福祉協議会

令和2年3月



〒622-0311 京都府船井郡京丹波町和田田中6-1
TEL: 0771-86-1444
FAX: 0771-88-0037



ホームページ

- 京丹波町地域福祉活動計画策定プロジェクトアドバイザー
志藤 修史 大谷大学社会学部 教授
矢野光樹子 (福) 京都府社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 副主査
- イラスト作者 土屋隆亮 JAHAPON LAND
土屋さんも地域福祉活動計画策定に向けたワークショップに参加いただきました